

# 沖縄県サンゴ礁保全推進協議会設立 10 周年記念シンポジウム

## 「サンゴ礁保全のこれまでとこれから - レスポンシブルツーリズムと自発的・持続的地域発展」

沖縄県と鹿児島県にまたがる琉球列島は、亜熱帯性気候のもとに形成された生物多様性に富んだ自然の宝庫としてその価値が認められている。列島を形成する各島嶼は、それぞれに特色ある発達を遂げたサンゴ礁で縁取られ、そこに営まれるサンゴ礁生態系もまた陸上の森林とともに高い生物多様性を誇り海の森とも称される。島嶼に暮らす人々は、陸上の森と海の森の双方から豊かな恵みを享受してきた。しかしながら、琉球列島のサンゴ礁生態系は人間活動の活潑な海岸域に直結しているため様々な地域的攪乱に曝されてきており、近年では地球気候変動に伴う海水温上昇により劣化が加速している。

このような状況下においても、私たちはその価値を守り、将来に亘ってその恵みを分かち合っけてゆくことを希求している。気候変動のようなグローバルな課題に対する行動規範である「持続可能な開発目標 (SDGs)」においてもサンゴ礁の保全は取り上げられており、琉球列島においても国立公園の整備が進み、世界自然遺産登録が実現しようとしている。これからはサンゴ礁をはじめとした自然資源の価値は新たな段階を迎え、地域経済と一層密接に関わるものとなるだろう。琉球列島では観光産業が地域経済の大きな柱に据えられ、自然資源はそのブランド力を強く補強しているが、一方でオーバーツーリズムによる新たな資源劣化の危機にも曝されており、地域住民による伝統智による自然資源管理を超えた新たな工夫が求められている。

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会は2008年の設立から10年を経て、このような新たな状況にも対応した活動が求められていよう。令和の節目を迎え、本シンポジウムではサンゴ礁保全に関わる助成事業の関連団体との意見交換を行うと共に関係機関による展望を共有し、協議会活動の10年を振り返りつつ歩み始めた次の10年の戦略を考える機会とする。

2020年2月22日 [土]

開演：10:00 - 16:30 (開場 9:30)

会場：沖縄県立博物館・美術館 講座室

### 【プログラム】

#### 第1部 10:00-12:00

「サウジアラムコ沖縄サンゴ礁保全活動支援基金助成事業活動報告」

・助成事業挨拶：中村 有吾 (アラムコ・アジア・ジャパン株式会社経営企画室長)

・助成事業活動報告：しかたに自然案内

海の自然史研究所

わくわくサンゴ石垣島

沖縄大学盛口ゼミ

・わたしのサンゴ礁イメージ展表彰式

#### 第2部 13:30-16:30

・基調講演 中野 義勝 (沖縄県サンゴ礁保全推進協議会会長)

「沖縄県サンゴ礁保全推進協議会の活動から見える、

サンゴ礁自然資源と観光産業との共存」

・津波 昭史 (沖縄県環境部自然保護課主任技師)

「沖縄県のサンゴ礁保全- 保全再生・オニヒトデ対策」

・山城 正己 (恩納村漁業協同組合前代表理事組合長)

「SDGs を見据えた恩納村のサンゴ礁保全」

・藤田 喜久 (日本サンゴ礁学会サンゴ礁保全学術委員会委員長)

「日本のサンゴ礁保全の学術的傾向」

・山岸 豊 (沖縄エコツーリズム推進協議会特別研究員)

「持続可能な観光地域づくりの実現に向けて」

・吉田 稔 (八重山サンゴ礁保全協議会会長)

「日常生活からはじめるサンゴ礁保全」

・広野 行男 (環境省沖縄奄美自然環境事務所国立公園保護管理企画官)

「国立公園における取組紹介」

・パネルディスカッション「サンゴ礁保全のこれまでとこれから」

コーディネーター：中野 義勝

パネリスト：比嘉 貢 (沖縄県環境部自然保護課課長)

山城 正己 藤田 喜久

山岸 豊 吉田 稔 広野 行雄

定員  
100名  
申込不要  
無料



主催：沖縄県サンゴ礁保全推進協議会 共催：沖縄県 協賛：アラムコ・アジア・ジャパン株式会社

後援：環境省沖縄奄美自然環境事務所 / 日本サンゴ礁学会 / 沖縄県エコツーリズム推進協議会

お問い合わせ：一般財団法人 沖縄県環境科学センター (090-6863-4087 ナガタ・ヤマカワ)

